

6 - 2 三重県中部の地震 (2000 年 10 月 31 日 M5.5)

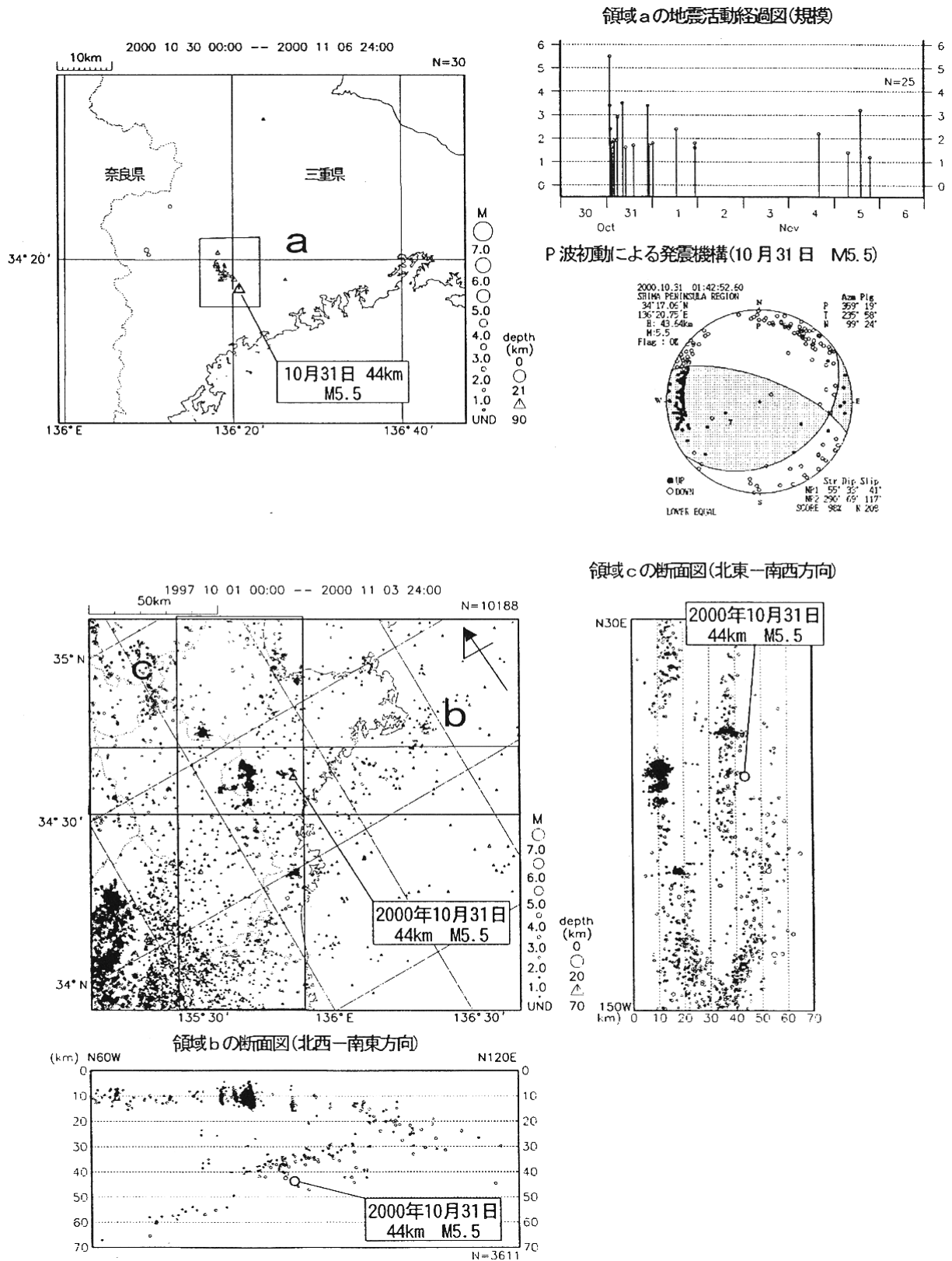
The M5.5 earthquake in the mid Mie prefecture on October 31, 2000

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division, Japan Meteorological Agency

三重県中部において、10月31日01時42分にフィリピン海プレート内部(深さ約44km)でM5.5の地震が発生し、最大震度5弱が観測された。余震活動は低調で、震源決定された地震は30個である。第1図下段の北東-南西方向の断面図に示されるように、この地震の南西側には震源の深さ分布が急変し、プレートの形状が複雑化する領域になるところであるが、今回の地震は、その北東領域の地震で、プレートの形状としては平坦な領域になっている。初動による発震機構解は、南北方向に圧力軸を持つ横ずれ成分を伴う逆断層型であった。第2図に示すように、過去にも、今回の地震と同様な発震機構解を持つ地震が存在するが、大局的には東西方向および北東-南西方向に張力軸を持つ発震機構の地震が多い地域と考えられる。ただし、この領域において、比較的大きめの地震が少なく、1944年東南海地震の後の約20年間にM5以上の地震が発生しているのみで、今回の地震の発震機構解が特殊であるかどうかは充分議論できるほどでない。また、東南海地震の震源域のやや広域の領域で、M5以上の地震活動において、東南海地震の発生する約20年前から東南海地震までには、M5以上の地震は3個しか発生していないことが分かる。東南海地震の発生以後、比較的地震活動の活発な時期が1960年代まで続くが、その後、活動は低調となり、知多半島沖で1971年1月5日にM6.1の地震、浜名湖沖で1997年5月24日にM5.9の地震が発生しているのみであり、今回の地震は、全体的に活動が低下している中で、大きめの地震が発生したことに注目すべき地震といえるであろう。

三重県中部の地震活動(1)



第1図 三重県中部の地震活動。

Fig.1 Seismic activity in the central Mie prefecture.

